



2025年1月29日掲載

米国やドイツの株式市場が経済と連動しない件

ドイツでは、代表的な株価指数のDAX指数が1月に高値を更新した一方、GDP成長率の見通しの引き下げなど経済情勢への心配が増えています。アメリカでも、景気減速が予想されてもS&P500種株価指数が上昇してきました。どちらも市場を引っ張る大型株が国内経済とあまりリンクしていないからです。

まずドイツについて、ドイツのGDP成長率は2年連続のマイナスとなりそうで、エネルギー価格上昇、中国の需要低下による自動車など輸出の悪化と労働争議などが同国経済の重しになっています。

一方でDAX指数は2024年を通じて上昇、2025年に入っても好調です。確かに自動車業界は不調ですが、防衛関連や再生エネルギー関連、世界的な売上が好調な業務システムの企業などが指数をけん引しています。

つまり、DAX指数では経済の重しに関連しない銘柄の比重が高く、指数が経済を代表していないようです。ここから欧州中央銀行（ECB）の利下げが進むことは短期的な好材料となるかもしれませんが、指数をリードする銘柄とドイツ経済の関連性が薄ければ、金融政策よりも銘柄ごとの利益動向が指数を動かすと考える必要があります。

同様に、米国経済はこれまでの高金利で不動産業界などが傷み、全体としても景気減速が予想されるにも関わらず、S&P500もやはり2024年から2025年1月に入っても好調です。

これは指数のけん引役が人工知能やそれにかかわるソフトウェア、半導体関連などに集中しているからでしょう。こちらも政策動向よりも特定業種の収益動向に注意する必要がありそうです。

（日興アセットマネジメント チーフ・ストラテジスト 神山 直樹）

《本資料は執筆者の見解を記したものであり、当社としての見通しとは必ずしも一致しません。本資料のデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客さまご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》